

平成24年度 堺市障害者自立支援協議会 障害当事者部会 第2回本会議 議事概要

日時	平成24年7月25日（水） 14:00～16:00
場所	堺市総合福祉会館 2階 第1会議室
出席者 （敬称略）	茅原、岸本、白石、帋田、野崎、高木、松本、丸野、梅田、谷口、 前田、三田、吉村
欠席者 （敬称略）	佐野
支援者	ボランティア2名
事務局	中島、大塚
事務局補助	【総合相談情報センター】谷口、松本
傍聴	大西（美原区障害者自立支援協議会）

● 福祉避難所について

【堺市危機管理室からの説明】

- 福祉避難所は、高齢者、障害者、妊産婦、乳幼児、病弱者など、通常の指定避難所（学校等）において何らかの特別な配慮を要する在宅の要援護者が対象。
- 原則として「要援護者の家族や介助者1名」も受入可能としているが、介助者の数については、場合により複数名となることもあり得る。
- 避難の流れとしては、まずは通常の指定避難所（学校等）に避難した上で、そこへ巡回してきた市役所の保健師等が要援護者の状況を判断し、福祉避難所への受入対象者を決定する。
- 福祉避難所は災害発生後すぐに開設されるというのではなく、スタッフやベッド、毛布等が用意できた段階で受入を開始することとなるため、あくまで二次的な避難所として考えている。
- 福祉避難所への移動の介助については、家族や地域の方などで行ってもらうことが基本となる。なお、送迎車両のある福祉施設については、市から協力を依頼することも考えているが、災害時の状況によっては、車両が使用できない可能性もある。その時は施設協議会を通じて車両の確保に努めたい。
- 従来、2ヶ所の市立公民館のみであったが、今年3月に国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）を追加するとともに、6月には、56ヶ所の民間の福祉施設と協定を結んだところである。受入可能人数は今のところ約800人で、今後も拡大していきたい。
- 福祉避難所に指定されている通所施設で支援を受けている時に災害が発生した場合は、いったん通常の指定避難所（学校等）に移動した後、再びその施設に移動することになってしまう場合があるため、施設の判断により通所施設からの移動を行わないこともある。

【質問・意見交換等】

- 福祉避難所に精神安定剤等の薬を備蓄する予定は？ ⇒今のところ、避難所へ薬を配備しておく

いう予定はないが、薬剤師会と協定を結び、薬を備蓄している。実際の流れとしては、各避難所からの依頼を受けた市が、それを集約して薬剤師会に連絡し、薬剤師会から薬をもらう、ということになると考えている。また、食料や水についても3日分ぐらいは各自での確保をお願いしているところであり、薬についてもある程度の予備を各自で確保しておくことが、より安心な方法ではないかと考えている。

- ・福祉避難所への直接的な避難はできないか？ ⇒事前に「この人は直接福祉避難所へ」ということを決めておくことができないかとのご意見もあるが、災害の状況により受入態勢も変わってくるため、その場で対象者の状況等を判断し、受入態勢も確認しながら順次、移動する方法をとらざるを得ないと考えている。
- ・指定避難所となる民間福祉施設への食料や水の備蓄は？ ⇒今はまだ協定を結んだだけの状態であり、備蓄等についてはこれから検討していくこととなる。食料等、必要最低限のものについては配備させていただく方向で考えているが、置き場所や予算の問題もあり、今後、施設側との具体的な調整が必要である。
- ・福祉避難所が開設されるまでにかかる日数は？ ⇒一般的には2～3日とされているが、物資が何もない公民館等と比べて、福祉施設の場合は普段から何らかの事業を実施しているため、比較的早く開設できる可能性もあると考えられる。
- ・通常の指定避難所（学校等）に身障者用トイレ等の設備がもう少し整っていれば、福祉避難所に行かずに済むという人もいると思うのだが。 ⇒学校等のバリアフリー化も順次進められているが、そうでないところも多くあるのが現状であり、改善に向けてお願いしていく。
- ・障害者数の把握や避難訓練は行われているか？ ⇒手帳所持者数により把握しているが、それをどのように活かしていくかが今後の課題。訓練についてもこれから検討していくこととなるが、現在、福祉部局から要援護者へ文書を送付し、状況を確認するといった作業を臨海部のエリアごとに進めている段階であり、何年かかけて全エリアの確認が終われば、次に避難についての具体的な方策を検討するという具合に、一歩ずつ進めていくこととなる。

● 当事者交流会について

- ・今年度の当事者交流会の方向性等については、以下のとおりとする。

①今年度の方向性：

前年度に自立支援協議会として実施した研修のうち、グループホーム事業者研修については当事者の声を十分に反映できなかったという経緯を踏まえ、今年度においては、部会の枠を超えて広くグループホーム利用者の声を集めることを目的とし、グループホームにテーマを絞って開催する。

②来年度以降に向けた方向性：

今年度はグループホーム利用者を対象とした交流会となるが、グループホーム利用者以外の当事者との交流も必要であるとの意見も多く出されたことを踏まえ、来年度以降においては、テーマを変えながら継続的に開催していくことも含めて検討していく。

● ウェルカムシールについて

- ・ウェルカムシールとは、例えば、車椅子でお店に入ろうとしたときなど、「断られるのでは」という戸惑いがあることから、お店を回って説明し、歓迎してもらえる店（＝シールの貼ってある店）を増やしていくことで、安心してお店を利用できる環境をつくっていこう、という発想で生まれたもの。具体化はこれから。
- ・まずは車椅子から始めることとし、部会委員のよく行くお店を最初のターゲット（10店舗程度）として、交渉してはどうか。
- ・交渉して断られた場合、そのお店に行きづらくなるのでは。
- ・「当事者がお店を評価した結果、合格である」という意味に受け取られると、店側からすれば不愉快な気持ちにならないか。
- ・この部会でやるからには3障害でなければ意味がないのでは。
- ・やってみることが肝心という考え方もあるが、最初が肝心という考え方もある。例えば、まずは商店街の組合等に出向き、「こういう企画があるが、どのようにすれば広がるか」といった相談を試みたり、誤解を招かないようお店への説明のしかたを皆でシミュレーションしたりすることも必要では。
- ・「ウェルカム」という店側の視点ではなく、「入りやすいお店」という当事者側の視点で進める方が受け入れられやすいのでは。
- ・冊子やブログに掲載したり、マップを作ったりする方法もある。
- ・いずれにしても、部会委員が店側にきちんと説明できるようにするための文書を作る必要があるもので、まずはその案の作成から進めていくこととする。

● その他

- ・研修担当の今年度のスケジュール案としては資料のとおり。
- ・三田会長から、堺市の「暮らしの場あり方検討会」（三田会長も委員として参画）での議論に活かすため、「こんな支援があれば」という意見を出してほしいとの問いかけがあり、以下の意見が出された。
 - *入居者に合わせて設計された住宅
 - *交通サービスを使いやすく（駐車場の確保）
 - *街中でショートステイ（送迎あり）
 - *ユニバーサルデザインを市内全域に
 - *個人の風呂（ゆったり入れるバスタブ付）、トイレ、キッチン（バリアフリー）があるグループホーム
 - *ピアサポートセンターの設置（働く場にもなる）
 - *往診サービスの充実（訪問リハ）
 - *ガイドヘルパーの使い勝手が悪い
 - *ITの活用
 - *SOHO（家で仕事ができる）＋IT
 - *バリアフリー（車止めなど細かなところ）

- *電話相談（ピア、基幹相談支援センター）
- *支援者の質（当事者が講師）←当事者が育てる
- *いつでも使える移送サービス（様々な補完）
- *障害者の子育て支援（結婚して子どもを持てるような環境）

● 次回 障害当事者部会 運営会議

- ・ 8月22日（水）14：00～16：00 市役所地下1階 会議室B